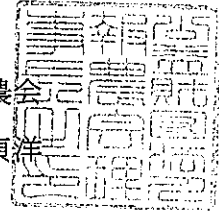


令和3年7月9日

日本農薬学会
会長 塩月 孝博 様

公益財団法人 報農会
理事長 田付 貞洋



第36回報農会シンポジウム開催のご案内
(広報誌への掲載依頼について)

拝啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当会の事業につきましては、常々多大のご協力を賜り誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、第36回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン—2021』は、別添の通り9月29日（水）にオンラインによるライブ配信にて開催することに致しました。

つきましては、広く関係者にお知らせしたく、出来ましたら貴機関誌・新聞・雑誌等にご紹介いただければ幸いに存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

なお、シンポジウム終了後、別添のお知らせの通り、報農会主催の第36回功績者表彰式を同じ場所（シンポジウムと同じURL）にて開催致します。

『植物保護ハイビジョン — 2021』のご案内

— 明日の植物防疫の可能性を探る〈新たな試みの貢献に期待〉 —

趣 旨： 前回のシンポジウム（総合テーマ「国際植物防疫年 2020 に明日の可能性を探る」）は、COVID19（新型コロナウイルス感染症）の感染拡大により中止を余儀なくされました。報農会は、農林水産省から FAO が主催する「国際植物防疫年 2020」のオフィシャルサポーターの認定を受け、シンポジウムを協力の場と位置付けて準備を進めていましたが、ウイルスの想定外の猛威に中止はやむを得ませんでした。

1 年余が過ぎ、ウイルスなどに関する知見が徐々に蓄積され、複数のワクチンが普及にこぎつけるなど予想を上回る進展もありましたが、一方で相次ぐ変異株の出現などにより、国内外の感染状況は今もっておさまる気配がありません。この状況で、本年は報農会として初めてオンラインによるシンポジウム開催となり、主催者の力不足もあってリモートでの参加には様々な制約があるため、参加を希望される皆様に多大なご不便をおかけすることをお詫びします。

このように不十分な形であっても敢えてシンポジウムを開催するのは、主催者一同の強い意志が働いてのことです。昨年果たせなかったオフィシャルサポーターの役割を果たすことはもちろんですが、根底には、かような世界の非常時であればこそ「人の生命維持に欠かせない農業生産をサポートする植物防疫の重要性はいっそう高まっている」という信念があります。「新しい試みで突破口を模索することがわれわれの使命である」というスタンスで本シンポジウムに臨みます。私たち主催者一同の思いをプログラムから読み取っていただければ幸いです。

主 催： 公益財団法人 報 農 会

協 賛： 一般社団法人 日本応用動物昆虫学会、一般社団法人 日本植物病理学会、日本農薬学会、一般社団法人 日本雑草学会

日 時： 令和 3 年 9 月 29 日(水) 10:00~15:30 (オンラインによるライブ配信)

〈プログラム〉

開 会：10:00~10:10	挨拶	報農会 理事長 田 付 貞 洋
講 演：10:10~11:00	植物防疫の現状と課題について	農林水産省 植物防疫課 二階堂 孝 彦
11:00~11:50	鳥獣被害の実態と対策について	野生生物研究所ネイチャーステーション 古 谷 益 朗
11:50~13:00	休 憩	
13:00~13:50	AI を活用した病害虫の画像診断	法政大学 理工学部 彌 富 仁
13:50~14:40	温暖化に対応した山形県庄内地域におけるカンキツ適応性試験の取組み	山形県庄内総合支庁 農業技術普及課 安孫子 裕 樹
14:40~15:30	雑草を活かして雑草を防ぐ有機稲作	館野かえる農場 館 野 廣 幸

※今回は質疑応答、総合討論は行いません。

参加費： 3,000 円（講演要旨集を含む。ただし、講演要旨集のみ購入の場合 2,000 円）

申込み： 報農会ホームページに掲載しております『開催要領』をご覧の上、申込用紙に必要事項を記入して、メール又は FAX でお申し込みください。

なお、シンポジウム終了後、続いて同じ場所（シンポジウムと同じ URL）において報農会主催の第 36 回功績者表彰式をオンラインで行いますので、お時間の許す方は是非ご覧ください（15:45~16:15 功績者表彰式）。

連絡先： 公益財団法人 報農会 事務局

TEL/FAX：042-452-7773 E-mail：khono511@car.ocn.ne.jp URL：http://www.honokai.org/

功績者表彰式のお知らせ

毎年行っていた植物防疫の発展に寄与された功績者の表彰式及び祝賀会について、昨年度第35回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策等により、止むを得ず中止となりました。

本年度第36回につきまして、出席者の安全確保を第一に考え祝賀会は行いませんが、表彰式については変則的ながら以下のとおり開催いたします。お時間の許す方は是非ご覧になり、祝福を賜りたくご案内申し上げます。

開催日時 令和3年9月29日(水) 15:45~16:15

開催形式 オンラインによるライブ配信(シンポジウムと同じURL)

第36回功労賞受賞者(3名:五十音順)

浅利 覚氏(あさり さとる)

職歴 山梨県農業試験場, 同県果樹試験場, 県庁農業技術課等

- 業績
- ウドの新病害萎縮病を発見しMLO病であることを明らかにするとともに、罹病株の抜き取り、農薬散布等現地指導に尽力された。
 - ブドウの枝幹異常症の研究に携わり、血清学的診断法及び遺伝子診断法の利用、茎頂培養法による無毒母樹育成など防止対策に貢献された。
 - ゴルフ場からの農薬流出問題に対応し、農薬取締法や芝草病害虫の防除法について研修会の実施や現地指導に尽力された。

富川 章氏(とみかわ あきら)

職歴 三重県農業技術センター, 同県科学技術振興センター, 同県植物防疫協会

- 業績
- トマト根腐萎凋病の発生生態の解明及び防除法の開発に取り組み、土壌消毒の確立や菌の飛び込み防止対策の確立に貢献された。
 - オゾンを利用した循環式養液栽培における培養液殺菌システムの開発に寄与された。
 - 県植物防疫協会の再発足に尽力されるとともに、GLP対応農薬残留試料調製試験の実施体制の構築を図った。

中須賀 孝正氏(なかすが たかあきら)

職歴 長崎県総合農林センター, 同県病害虫防除所, 県庁農政課等

- 業績
- 水稻害虫に係る薬剤抵抗性対策の技術普及及び海外飛来性ウンカ類捕食性天敵の有効利用に尽力された。
 - ショウガの害虫の発生生態の解明及び防除法の策定に携わり、ショウガの安定生産に寄与された。
 - 馬鈴薯アブラムシ類の発生特性の解明, ジャガイモガの発生予察法及び防除法の確立に貢献された。